



# 決算説明資料

---

第71期：2026年3月期 第1四半期

---

株式会社平賀  
東証STD 7863

2025年8月8日





## この国の販促を、変革します。

お客さまとともに次のステージへ進むために、  
2023年、当社はミッションとビジョンを再定義しました。

昨今、課題が山積する小売流通業界は、  
かつてないほどチャレンジングな時代に突入しています。

そんな中、当社はお客さまとの固いパートナーシップを礎に、  
これまでに培ってきた知見とコンサル能力を発揮し、  
印刷・販促業界の中でもオンリーワンの存在として  
小売業界の活性化に貢献してゆく所存です。

そして2030年、小売の課題解決が日本一得意な会社へ。  
私たちは、販促を変革し続けます。

# アジェンダ

-  1 2026年3月期 第1四半期 決算概要 ..... P4
-  2 2026年3月期 第1四半期 事業概況 ..... P10
-  3 Appendix ..... P17

本資料に記載されたすべての意見や予測、見通しなどは資料作成時点における入手可能な情報に基づいた弊社の判断であり、様々な要因の変化により、実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

## 2026年3月期 第1四半期（4～6月）業績ハイライト①

収益面では、前期に獲得した新規大型案件が順調に積上り、既存顧客の落込みを補う  
利益面では、新規案件の立上げ対応において、オペレーションコストが膨らむ  
早期の業務の平準化と、導入システムの活用推進が喫緊の課題

売上高

2,528 百万円 前年同期比 4.4% 増

営業利益

56 百万円 前年同期比 59.2% 減

- **収益性** 新規大型案件が順調に増加、業務改善サービスの推進が課題
- **生産性** 生産性改善と連携強化により、内製化が促進
- **安定性** ESG経営の推進で、信頼と成長を両立

詳細P12・13

詳細P14

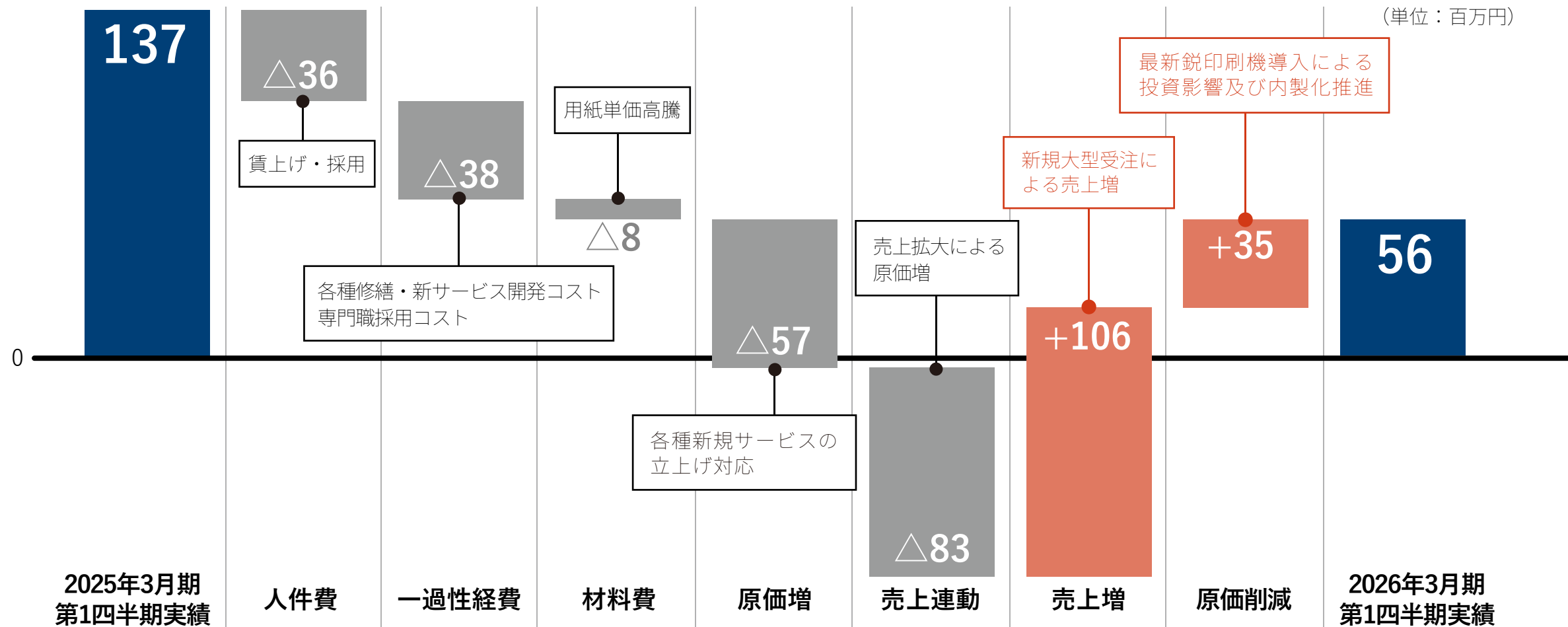
詳細P15

## 2026年3月期 第1四半期（4～6月）業績ハイライト②

|      | 2025年3月期<br>第1四半期実績<br>(百万円) | 2026年3月期<br>第1四半期実績 | 前年同期比 | 増減率    | 進捗率   |
|------|------------------------------|---------------------|-------|--------|-------|
| 売上高  | 2,421                        | 2,528               | + 106 | 4.4%   | 24.3% |
| 営業利益 | 137                          | 56                  | ▲81   | ▲59.2% | 14.1% |
| 経常利益 | 157                          | 76                  | ▲80   | ▲51.4% | 16.2% |
| 純利益  | 107                          | 45                  | ▲61   | ▲57.6% | 13.8% |

## 2026年3月期 第1四半期（4～6月）営業利益の増減分析

新規大型受注により売上増加も、各種サービスの立上げ対応でオペレーションコストが増加  
生産面においては、生産性向上と組織連携の強化により、内製化が促進



## 2026年3月期 第1四半期 通期業績予想進捗

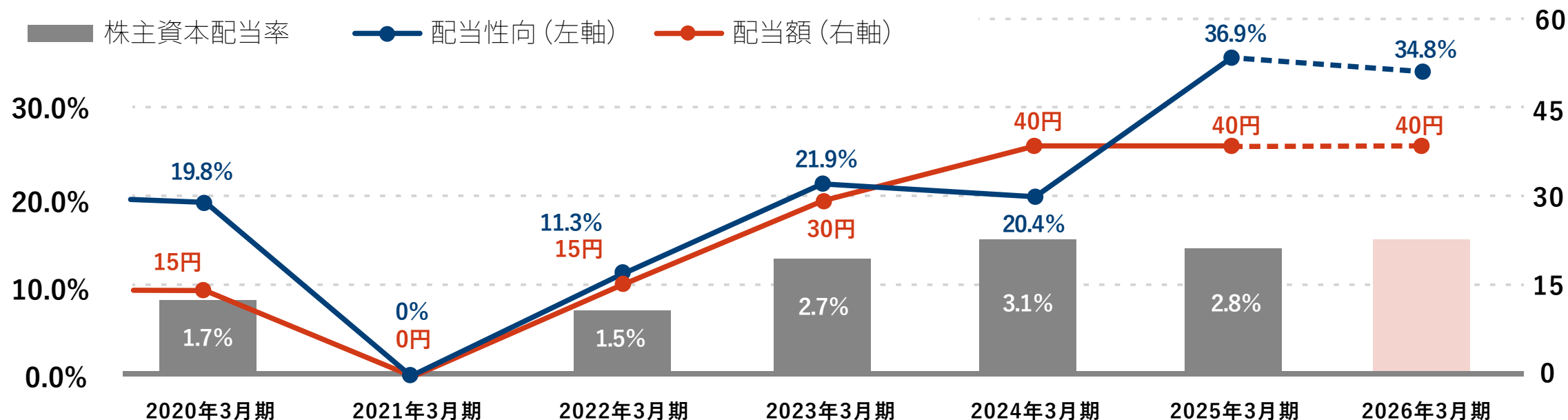
新規顧客への業務改善サービス導入が順次進んでおり、  
今後は、安定稼働により利益面の回復が見込まれる  
外部環境に不透明な要素も多いため、現時点で通期業績予測は据え置き

|       | 通期 (百万円) |        |      | 参考 (百万円) |       |
|-------|----------|--------|------|----------|-------|
|       | 前期実績     | 業績予想   | 伸長率  | 1Q 実績    | 進捗率   |
| 売上高   | 9,792    | 10,400 | 6.2% | 2,528    | 24.3% |
| 営業利益  | 365      | 400    | 9.5% | 56       | 14.1% |
| 経常利益  | 437      | 470    | 7.3% | 76       | 16.2% |
| 当期純利益 | 311      | 330    | 5.8% | 45       | 13.8% |

## 2026年3月期 第1四半期 配当予測

### 2026年3月期の配当は、当初予定通り1株当たり40円を維持（予定）

当社は、企業体質を強化し、持続可能な成長を確保するため、内部留保を充実させつつ、安定的かつ適切な配当の継続を基本方針として掲げています。特に中期経営計画SPX2027では、2027年3月期における配当性向を30%以上とする目標を設定しています。株主還元の強化と企業価値向上を両立させるため、当期配当は前期と同額の1株当たり40円を計画しています。

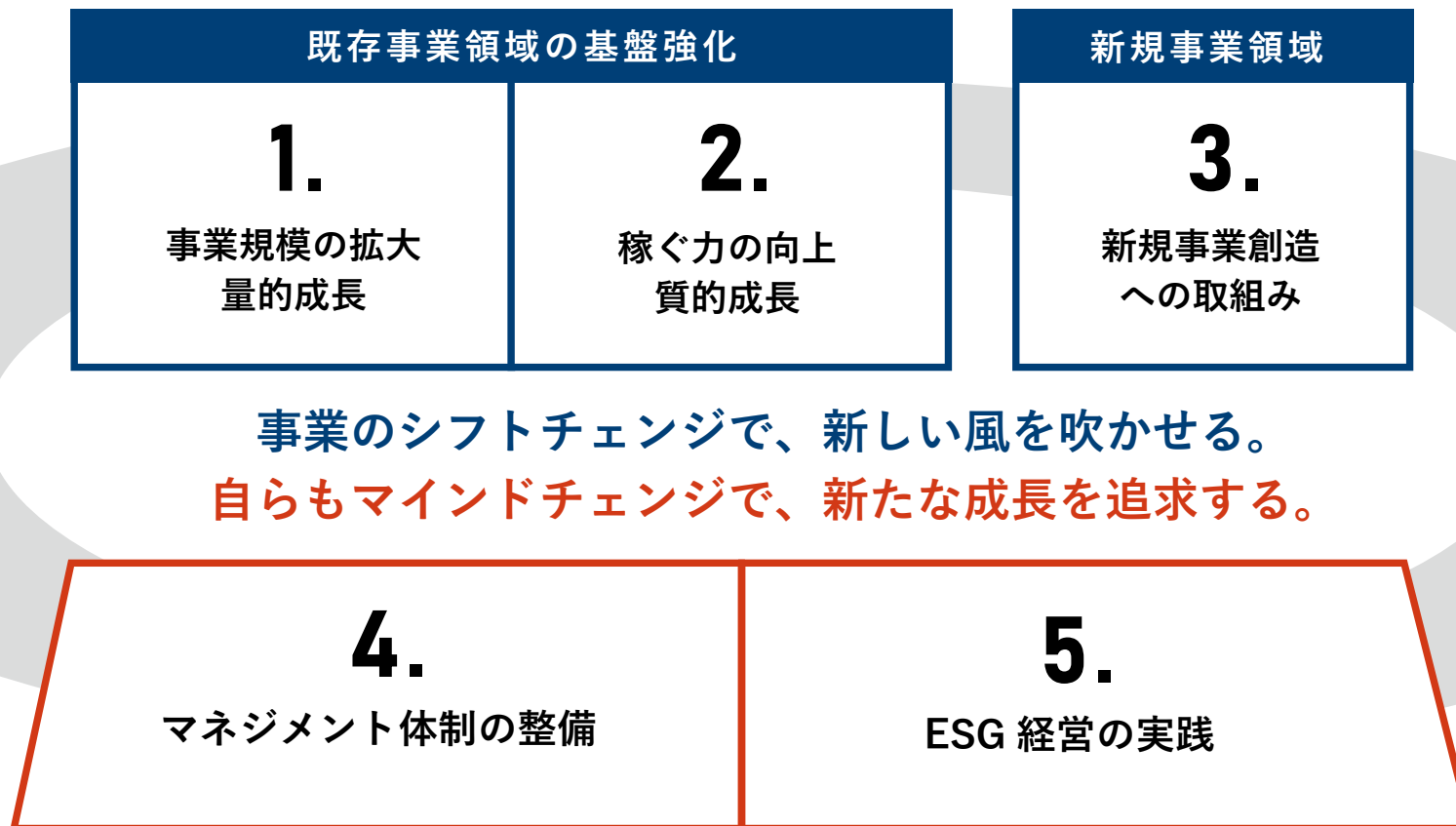


# アジェンダ

- 1 2026年3月期 第1四半期 決算概要 ..... P4
- 2 2026年3月期 第1四半期 事業概況 ..... P10
- 3 Appendix ..... P17

## SPX2027（2025年～27年3月期）事業戦略

Vision2030「小売の課題解決が日本一得意な会社へ」の実現にむけて  
以下の事業戦略に基づく諸施策に取り組んでいく



## 2026年3月期 第1四半期 当社を取巻く事業環境

### 主要顧客である小売業界

---

- ・物価高を背景に、値上により売上は増加。
- ・実質賃金の伸び悩みにより消費者マインドは停滞。
- ・エネルギー価格・原材料費の高騰は原価に影響し、利益率が低下。
- ・物流コスト上昇と労働力不足も加わり経営を圧迫。  
⇒経営の効率化・労働生産性の向上が課題となり、対応が加速。

### 事業領域である販促及び印刷業界

---

- ・消費者行動の多様化により、販促においてもマスから個への対応が進む。
- ・スマートフォンの普及にともない、デジタル販促のニーズが拡大。
- ・販促物制作作業の、省人化・省力化への対応と新技術導入は不可避。
- ・需要が減少傾向にある紙媒体だけでは、収益性維持が困難。
- ・原材料価格の持続的な高騰と、印刷機械設備の老朽化が進行。  
⇒生産性改善とデジタル化の両方に対応し、“稼ぐ力”の向上が課題。

## 2026年3月期 第1四半期【収益性】①

前年度に開発した新規大型案件が取引開始され順調に推移  
販促手法の転換による既存顧客の減少を補う

### 当社の3つの競争優位性

01  
小売への  
知見と伴走力

02  
具現化する  
実行力

03  
強固な  
顧客基盤

新規の大手小売顧客へ「営業収益」×「経営効率」の  
攻守両面から包括的な付加価値提案を行う

#### 01 小売課題に 徹底伴走

営業収益拡大をマーケティング  
に基づきご提案。課題に合わせて  
カスタマイズ対応。

#### 02 効果検証サイクルで 確実な成果を

精密な分析と実行、効果検証に  
よるサイクルで確実な成果を導  
きだし顧客満足度を向上。

#### 03 より強固な パートナーシップを構築

クライアントの企業価値を包  
括的に支援し、価値を高め、  
持続可能な成長を後押し。

左記の提案により  
前年度中に大型案件を

**4社** 獲得

25年3月より順次取引開始

### 【大型受注獲得による3つの効果】

#### ① ノウハウの蓄積

顧客との接点が従業員のスキルを向上させ、  
人材育成やサービスの理解向上に繋がります。

#### ② 新たなニーズの発見

新規顧客との関係構築や情報収集が、  
新たな受注や、サービス改善に活かされます。

#### ③ 安定性とリスク分散

特定顧客への依存度が下がり、  
事業の安定性が高まります。

## 2026年3月期 第1四半期【収益性】②

新規案件の立上げ初期対応において、各種サービス導入のオペレーションコストが膨らむ  
社内・社外ともに業務改善サービスの活用推進が喫緊の課題

### 【業務改善サービスのご紹介】

※業務改善サービスとは、顧客を含む販促物制作業務において負担を軽減するために、  
当社が独自に構築した複数の支援サービス群の総称です。

#### 業務改善サービス3つのメリット

##### ①業務の標準化・効率化

×

##### ②作業負担の軽減

×

##### ③情報の見える化

||

月200時間以上の  
削減実績

※導入して頂いている  
お客様の参考数値



##### ①業務の標準化・効率化

- ・販促物制作の進行を一元管理
- ・原稿の遣取りがオンラインで完結
- ・担当者毎の原稿フォーマットのバラツキを統一



##### ①業務の標準化・効率化

- ・顧客内・制作会社毎で重複している画像データをシステムで一元管理

##### ①業務の標準化・効率化

- ・システムのデータから様々な媒体に連動可能

##### ②作業負担の軽減

- ・関係者への紙面の回覧業務が解消
- ・何処でも確認ができる環境を実現  
(外出先・在宅勤務中でも確認可能)

##### ③情報の見える化

- ・スケジュールや進行状況が可視化
- ・修正履歴や承認状況も一括管理

##### ②作業負担の軽減

- ・校正業務のオンライン化で  
完全ペーパーレス、時間の  
調整や配送費等のコストも削減

## 2026年3月期 第1四半期【生産性】生産部門のイノベーションが進展

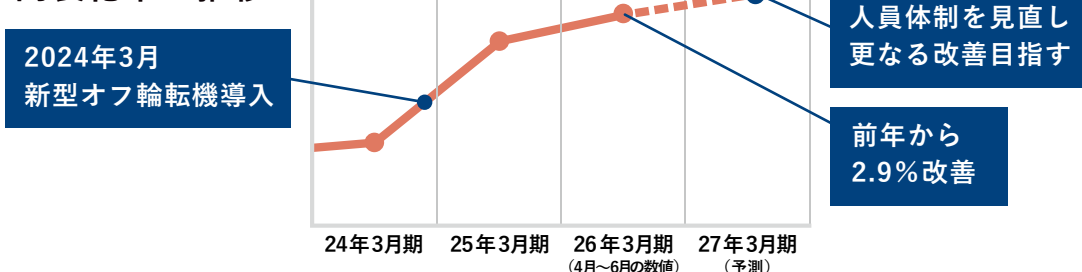
生産工場（埼玉工場・和歌山工場）への積極的な投資（設備・人材）を継続し、  
内製化を促進して収益性の改善を図る

### 埼玉工場の削減事例

最新鋭のオフ輪転機の有効活用と  
組織間を横断した連携強化により

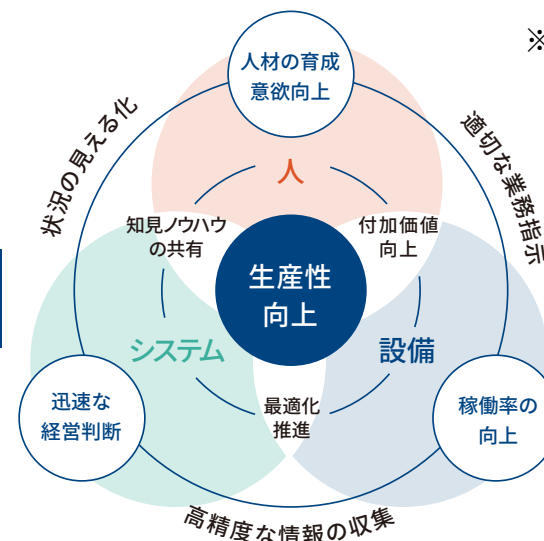
内製化比率が  
前期比で **2.9%改善**

#### 内製化率の推移



### 【3つの生産性改善施策】

- ①人材投資による稼働時間の拡大
- ②後加工設備への投資により内製領域拡充 ※1
- ③生産管理フルデジタル化による管理精度UP



#### ※1 折加工機の導入事例



↑ 新設折り機  
↑ 折り加工の様子

設備内容：ホリゾン AF-402S

稼働開始：2025年3月

付属設備：計数機・除電装置など

投資効果：折加工のため外注に出ていた  
印刷を内製化

**1月当たり約11百万円の外注費削減効果**

## 2026年3月期 第1四半期【安定性】持続可能な未来へ向けたESG経営の実践

### 人的資本経営の促進

#### ・前年度に続き賃上げを実現

##### 1) 賃金アップ

全従業員を対象として賃金の引上を実施。  
(賃上げ相当額は平均賃金の約6%)

##### 2) 役職手当の見直し

昇進へのモチベーションを高め、リーダーシップを発揮するチャンスを増やしていくため。

#### ・従業員の働く環境を改善

##### 1) 休日数の増加

健康意識の醸成と、ワークライフバランスの改善を目的として、休日数の増加を実施。

##### 2) エンゲージメント向上

働きがいとワークライフバランスを高めるため、エンゲージメントを見える化する仕組みを導入。

##### 3) 新卒採用の継続

将来を見据えた組織体制の充実と強化を進めるため、2025年4月に新入社員13名を迎え入れ。

#### ・ダイバーシティの推進

##### 1) 女性役員の登用

多様な視点を経営に取り入れることで、柔軟で持続可能な企業運営を目指す。

##### 2) 外国人実習生の育成

多文化共生で、イノベーションを推進。

### 持続可能な企業活動への取組み

#### ・和歌山工場へ太陽光発電システム導入完了



設備場所：和歌山工場屋上

稼動開始：2025年4月稼動

設置面積：304 m<sup>2</sup>

発電容量：69.62kW

年間CO<sub>2</sub>削減量29t

スギの木約3,300本分のCO<sub>2</sub>削減効果  
(4月～6月の数値より算出)

和歌山工場では、太陽光発電システムによる電力と  
非化石証書の使用により、**実質CO<sub>2</sub>フリー電気**で  
**全電力を賄い稼動**しています。

太陽光発電と  
合わせて

年間CO<sub>2</sub>削減量91.6t スギの木約14,009本分のCO<sub>2</sub>削減効果

**今後も環境負荷の低減とエネルギー効率の向上を  
進めてまいります。**

# アジェンダ

- 1 2026年3月期 第1四半期 決算概要 ..... P4
- 2 2026年3月期 第1四半期 事業概況 ..... P10
- 3 Appendix ..... P17

## Appendix 貸借対照表

| (百万円)    | 2024年3月<br>期末 | 2025年3月<br>期末 | 2026年3月<br>第1四半期末 | 前期末差 | 主な増減内容                           |
|----------|---------------|---------------|-------------------|------|----------------------------------|
| 流動資産     | 4,429         | 3,981         | 3,931             | △ 50 | ・ 現預金△34、未収入金△50、前払費用21、立替金23    |
| 固定資産     | 3,555         | 3,218         | 3,240             | 22   | ・ 有形固定資産△27、投資有価証券127、繰延税金資産△67  |
| 資産合計     | 7,984         | 7,200         | 7,172             | △ 28 |                                  |
| 流動負債     | 3,072         | 2,334         | 2,309             | △ 24 | ・ 支払手形及び買掛金△123、賞与引当金△64、未払費用157 |
| 固定負債     | 773           | 723           | 704               | △18  | ・ 長期借入金△10、退職給付金△8               |
| 負債合計     | 3,845         | 3,057         | 3,013             | △ 43 |                                  |
| 株主資本     | 3,699         | 3,896         | 3,826             | △ 69 |                                  |
| 評価・換算差額等 | 439           | 246           | 331               | 84   | ・ その他有価証券評価差額金84                 |
| 純資産      | 4,138         | 4,142         | 4,158             | 15   |                                  |
| 負債純資産合計  | 7,984         | 7,200         | 7,172             | △ 28 |                                  |
| 自己資本比率   | 51.8%         | 57.5%         | 57.9%             | 0.4% |                                  |

# 小売流通の今日を見つめ、 明日をデザインする。

株式会社平賀は、全社一丸となって持続可能な  
よりよい社会に向けて、多様な課題解決に積極的に取り組んでいきます。  
そのために常に新たな目標に向かって、従業員一人ひとりの働きがいを大切にしながら、  
全てのステークホルダーと共に、未来に向かって挑戦しつづけます。

当資料は、株主・投資家をはじめとした様々なステークホルダーの皆さまに

株式会社平賀への理解を深めていただくことを目的として、経営や財務に関する情報を提供するものです。

当資料は当社が信頼できると判断した情報源や最新の情報に基づき作成したものです。当資料に記載された事項につきましては、作成時点における当社の予測しうる判断に基づくものであり、用語を含め、完全性、正確性を保証するものではありません。実際の業績等は、今後の様々な要因によって大きく異なる可能性があります。

〈お問合せ先〉株式会社平賀 経営企画部 e-mail：contact@pp-hiraga.co.jp